

麦 作 情 報 第 1 号

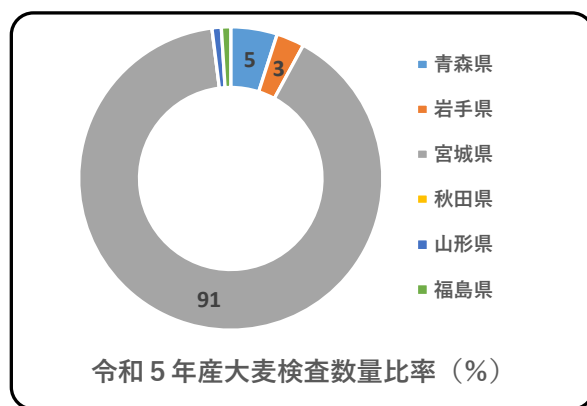
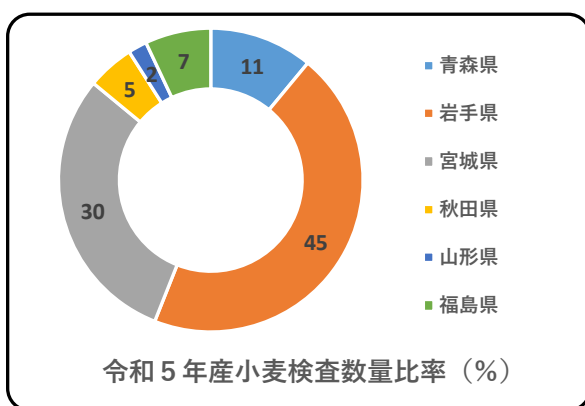
令和6年10月1日：JA全農みやぎ

～「適期播種」と「排水対策」で高品質麦の安定生産を！！～

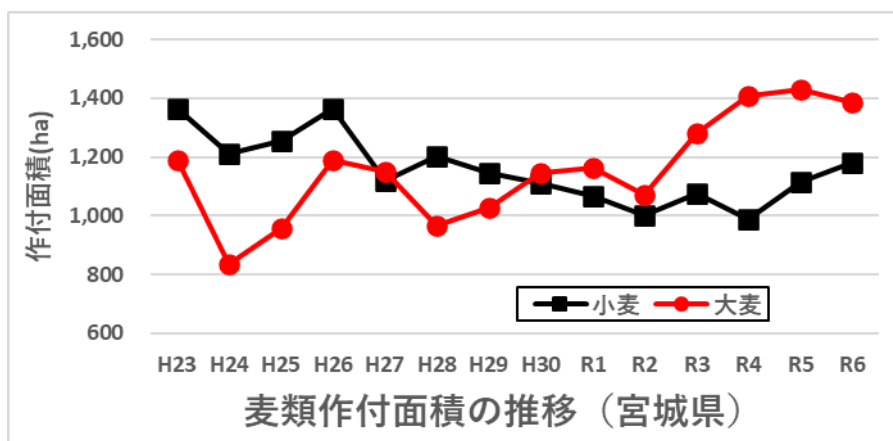
1 宮城県を中心とした麦の生産概況

(1) 東北地方と主産県の収量・品質【農林水産省 麦類の農産物検査結果より作図】

- ・東北地方における令和5年産の麦類検査数量は、小麦が16,716t、大麦が5,821tであった。
- ・小麦は、岩手県の45%に次いで宮城県が30%を占めている。
- ・大麦は宮城県が東北一で、東北地方の91%を占める主産県である。

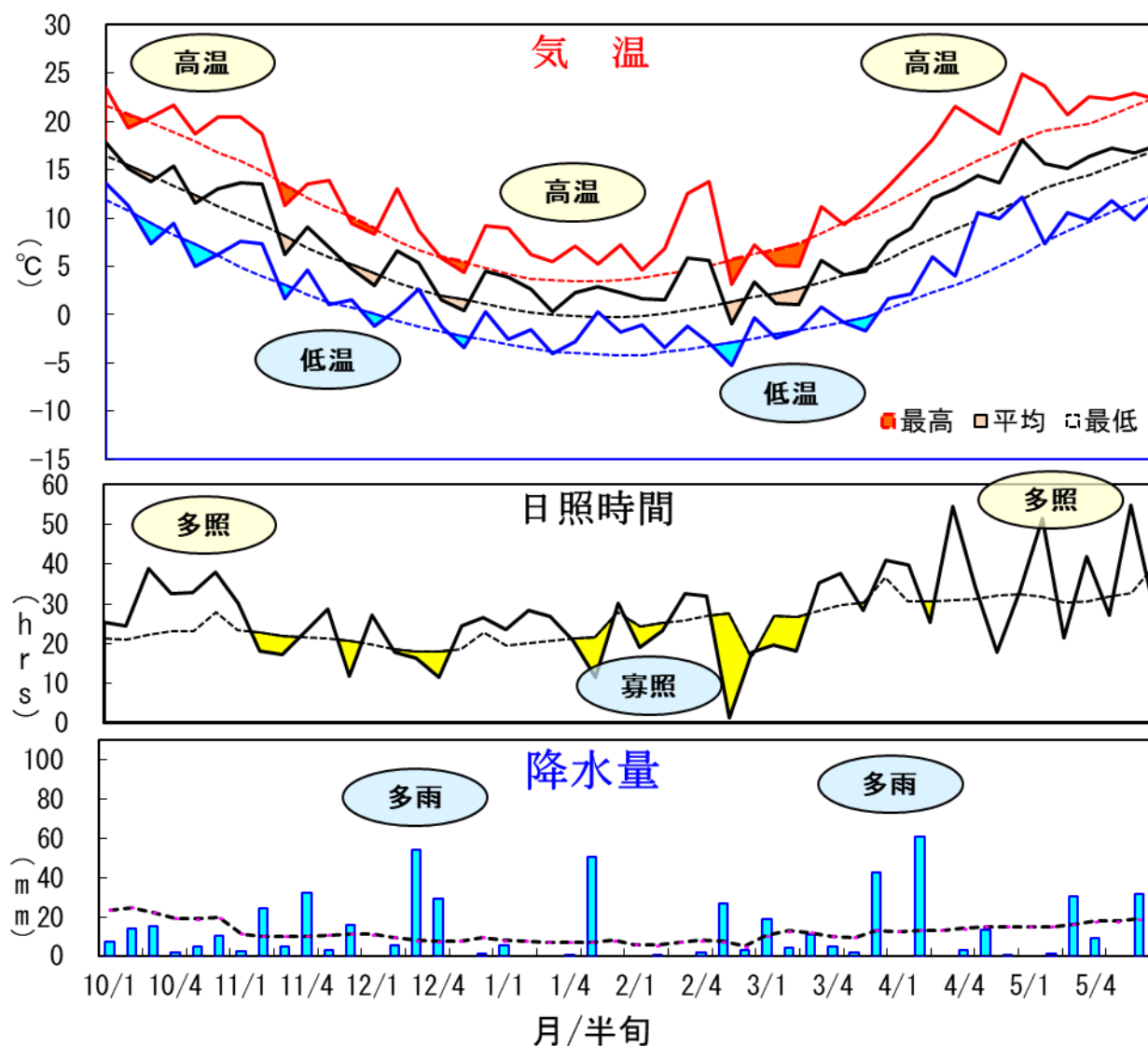


- ・本県における麦類の作付面積は、小麦・大麦ともに1,000～1,400ha前後で推移している。
- ・近年は、小麦が横ばい～漸増傾向、大麦は漸増～横ばい傾向にある。
- ・令和6年産は、主食用米の作付け減により、小麦は微増、大麦は横ばいであった。
- ・宮城県では、小麦においては、パン・中華めん用に適した品種として、令和元年産から「ゆきちから」に代わり「夏黄金（なつこがね）」が作付され、需要の高まりとともに作付面積が増加している。
- ・大麦においては、もち麦としての「ホワイトファイバー」の需要が高く、作付面積が増加している。



(2) 宮城県の令和6年産の生育と品質概況【古川農業試験場 麦類作況試験より】

【気象経過 (2023 年 10 月～2024 年 5 月 古川アメダス)】



1) 播種～12 月

- ・播種期 (10 月) の気温は概ね平年並みで、出芽日数 (10 月中旬播種) は平年並みであった。
- ・出芽後～12 月の気温は一時低温の時はあったものの、概ね平年並み～やや高めに推移したため、年内の生育量は、越冬前の目標生育量に達した。

2) 1 月～3 月

- ・1 月から 2 月前半は高温傾向で推移した。2 月後半から 3 月上旬に低温・寡照となったが、その後は再び高温傾向となったため、大麦は平年より 19～23 日早く 1 月～2 月中旬に、小麦は平年より 13～15 日早く 2 月下旬～3 月上旬に幼穂形成始期に達した。

3) 4 月～5 月

- ・気温は平年より高く推移したため、減数分裂期は大麦が 4 月 4 日～12 日、小麦は 4 月 18 日～21 日頃で、平年より 6～11 日程度早まった。
- ・出穂期は、大麦の「シュンライ」が 4 月 15～19 日頃で平年より 10 日、「ミノリムギ」は 4

月 19～21 日頃で平年より 10～12 日早まった。

- ・小麦の出穂期は、「シラネコムギ」が 4 月 26 日～28 日、「夏黄金」が 4 月 26 日～28 日頃で平年より 9～10 日早まった。開花期は平年より 10 日前後早まった。
- ・出穂期以降も高温傾向は続き、平年より 10 日程度早く成熟期を迎え、大麦は 6 月第 1 半旬頃から、小麦は 6 月第 4 半旬頃から収穫が始まった。

【作況試験の生育ステージ（古川農業試験場）】

区分	品種	播種区別	幼穂形成期		減数分裂期		出穂期		開花期		成熟期	
			本年 (月日)	平年差 (日)	本年 (月日)	平年差 (日)	本年 (月日)	平年差 (日)	本年 (月日)	平年差 (日)	本年 (月日)	平年差 (日)
大麦	シュンライ	中旬播種	1/5	-23	4/4	-11	4/15	-10	4/22	-10	5/30	-7
		下旬播種	2/12	-19	4/8	-10	4/19	-10	4/25	-12	5/31	-9
	ミノリムギ	中旬播種	1/16	-23	4/10	-9	4/19	-10	4/25	-10	5/31	-9
		下旬播種	2/13	-19	4/12	-9	4/21	-12	4/26	-14	6/1	-10
小麦	シラネコムギ	中旬播種	2/23	-15	4/18	-8	4/26	-9	5/5	-9	6/12	-10
		下旬播種	3/6	-13	4/21	-6	4/28	-9	5/6	-11	6/16	-9
	夏黄金	中旬播種	2/24	-14	4/17	-9	4/26	-10	5/5	-9	6/12	-11
		下旬播種	3/5	-15	4/20	-7	4/28	-9	5/6	-10	6/14	-11

注 1) 中旬播種は10/19, 下旬播種は10/31に播種を実施。

注 2) 中旬播種の平年値は、過去 7 か年中の最高値と最低値を除いた 5 か年分の平均値。

注 3) 下旬播種はH29から調査を開始したため、平年値は過去 5 か年分の平均値。

4) 作付面積と収量（下表参照）

- ・作付面積は小麦が 1,180ha, 大麦が 1,388ha で、収量は小麦が 412kg/10a, 大麦が 294kg/10a であった。

5) 品質（等級比率）

- ・小麦の 1 等比率は 82.3%で、前年産の 48.6%を大きく回り、高品質の小麦が多かった。
- ・大麦の 1 等比率は 1.3%で、前年産の 3.9%をさらに下回り、品質の低下が著しかった。品質は、細麦・未熟粒が多く、充実不足傾向にあった。**冬季期間の高温で生育が旺盛となり、肥料の消費や麦の消耗によって整粒歩合が低下したためと推測される。**

区分	品 種 名	作付面積 * 2 (ha)	検査数量 * 1 (t)	収量 * 3 (kg/10a)	等級比率 (%) * 1		
					1 等	2 等	規格外
小麦	あおばの恋	70	309	442	69.1	30.9	0.0
	銀河のちから	16	72	451	0.0	91.7	8.3
	シラネコムギ	446	1,552	348	81.2	15.6	3.3
	夏黄金	643	2,934	456	86.2	11.0	2.7
	小麦 計	1,180	4,867	412	82.3	14.9	2.8
大麦	シュンライ	483	1,231	255	2.4	70.9	26.7
	ホワイトファイバー	702	2,189	312	0.8	86.6	12.6
	ミノリムギ	198	657	332	0.6	58.9	40.5
	大麦 計 * 4	1,388	4,076	294	1.3	77.4	21.3

* 1 令和 6 年産麦の農産物検査結果（令和 6 年9月25日現在）

* 2 実播種面積（全農宮城県本部とりまとめ）

* 3 検査数量/作付面積

* 4 検査数量には産地品種銘柄以外の数量も含まれるため等級数量の合計と一致しない。

2 東北地方の1か月予報【9月28日～10月27日までの天候見通し 気象庁HPより】

- ・天気は数日の周期で変わるが、東北太平洋側では平年に比べ晴れの日が少ない。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。
- ・気温は、高い確率 80%、平年並み若しくは低い確率 10%。
- ・降水量は、多い確率 40%、平年並み若しくは少ない確率 30%。
- ・日照時間は、東北太平洋側では多い確率 20%、平年並み若しくは少ない確率 40%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）				
気温	東北地方	向こう1か月 09/28～10/27	10	80
		1週目 09/28～10/04	10	80
		2週目 10/05～10/11	10	80
		3～4週目 10/12～10/25	20	70
降水量	東北地方	向こう1か月 09/28～10/27	30	40
日照時間	東北日本海側	向こう1か月 09/28～10/27	40	30
	東北太平洋側	向こう1か月 09/28～10/27	40	20

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

3 令和7年産麦類の生産に向けて

（1）適期播種

- ◆麦は冬に向けて生育する作物なので、生育量の確保が最も重要である（北ほど早い播種）。
- ・播種が遅れると分げつの発生が遅れ、根張りも悪く寒害にも弱くなる。
- ・生育の遅れは、遅発分げつの発生が多く、未熟粒や硬質粒が発生して品質が低下する。
- ・播種量は、大麦で8～10kg/10a、小麦で9～11kg/10aを基本とする。
- ・赤かび病等の防除のため種子更新、選種、種子消毒を確実に実施する。
- ◆小麦「あおばの恋」は早生品種で、シラネコムギ等比べて生育相が速いため、早播きすると凍霜害（幼穂の凍死）が発生する恐れがある。そのため、他の品種より10日程度遅くする。
- また、あおばの恋の適正播種量は6～9kg/10aとする。

地域区分	小麦 あおばの恋	大麦	シュンライ
			ミノリムギ
			ホワイトファイバー
		小麦	シラネコムギ
			夏黄金
北部平坦	10月15～30日	10月5～20日	
南部平坦	10月25日～11月10日	10月15～30日	
三陸沿岸	10月15～30日	10月5～20日	

（2）排水対策

- ◆宮城県が東北地方で収量が高いのは、排水対策が徹底されているためである。
- ・排水不良のほ場では、出芽後や冬季の寒害等の影響により茎数が確保できない。
- ・ほ場内にも明渠（30～40cm 深）を設置し、本暗渠や弾丸暗渠を組み合わせる。